

第3回 高知県海岸保全施設技術検討会

沿岸市町村へのアンケート調査

令和7年12月24日

高知県 土木部 港湾・海岸課



アンケート調査の概要

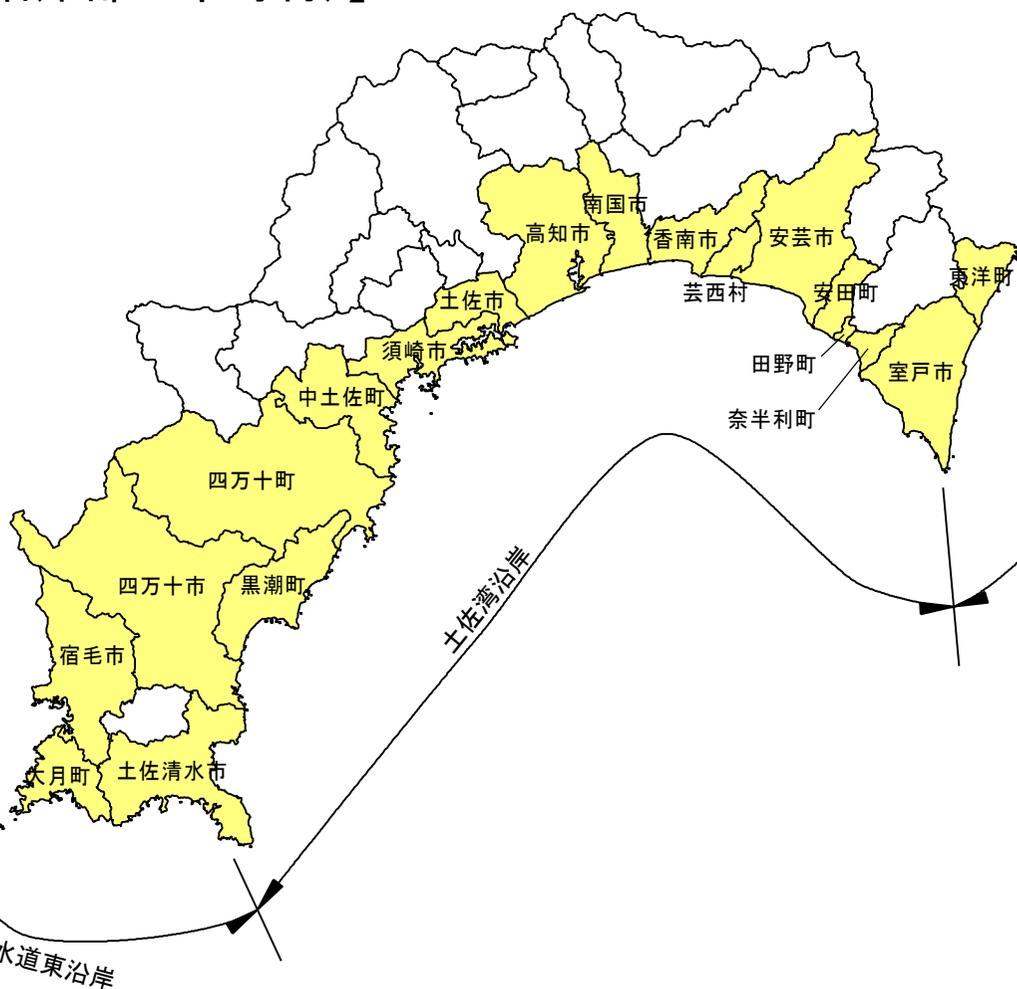
- 高知県沿岸の海岸保全基本計画の変更に向けて、沿岸部の各市町村を対象にアンケート調査を実施した。

【調査目的】

各市町村が取り組んでいる防災計画、各地域の海岸保全に関する現状、課題、要望、今後の施設整備方針等を把握し、海岸保全基本計画の変更、今後の施設整備等の検討や海岸管理の参考とする。

【調査対象(沿岸部19市町村)】

東洋町
室戸市
奈半利町
田野町
安田町
安芸市
芸西村
香南市
南国市
高知市
土佐市
須崎市
中土佐町
四万十町
四万十市
黒潮町
宿毛市
土佐清水市
大月町
宿毛市



【調査方法】

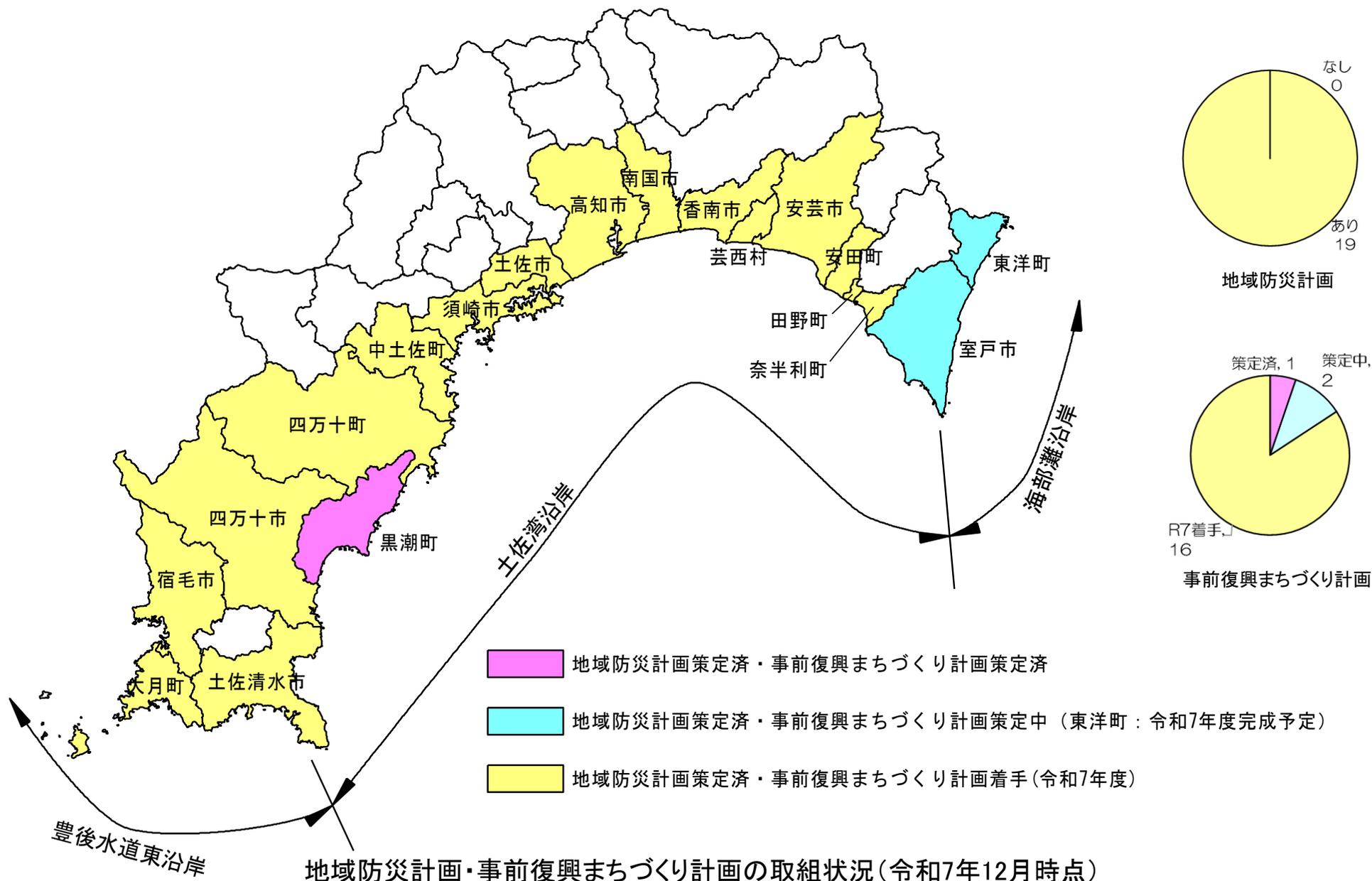
- 沿岸部19市町村の海岸関係部署等を対象
- 調査はアンケート(一部聞き取り)により実施

【調査内容】

- ① 防災計画の取組状況
- ② 海岸及びその周辺における対策等の実施状況(主にソフト対策)
- ③ 各市町村が把握している海岸保全に関する地域住民からの意見・要望
- ④ 各市町村が認識している海岸保全上の課題
- ⑤ 海岸保全に関する高知県への要望
- ⑥ 海岸利用や環境保全等に関する意見の聞き取り候補(今後の検討実施時の参考)

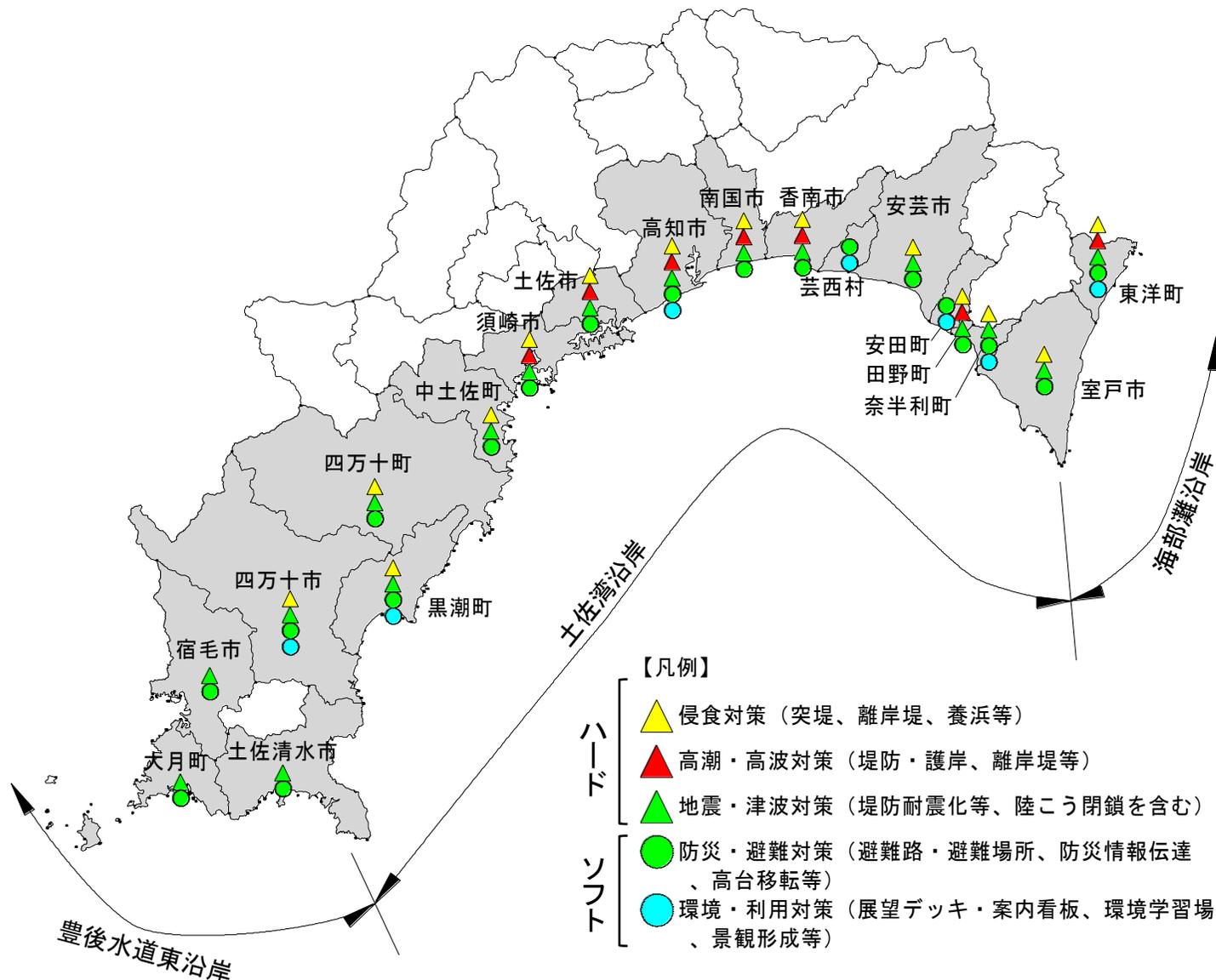
アンケート調査の結果(①防災計画の取組状況)

- 地域防災計画は、全ての市町村で策定済。
- 事前復興まちづくり計画は、黒潮町で策定済。他の全ての市町村において、令和7年度には検討に着手。



アンケート調査の結果(②対策等の実施状況)

- 国や県と連携したハード対策(侵食・津波対策等)、各市町村による避難・利用等に関するソフト対策が進められている。
- 全ての市町村で、避難路、避難タワー等の一時避難場所、防災無線等の防災情報伝達手段の整備が実施されている。
- 展望デッキの整備、案内看板の設置、環境学習場の整備、魅力ある景観形成等に取り組んでいる地域もある。



津波避難タワーの整備例(黒潮町)



展望デッキ等の整備例(芸西村)

海岸及びその周辺における近年の対策等の実施状況(令和7年12月時点)

アンケート調査の結果(③住民意見 ④市町村の課題 ⑤要望)

- 以下のとおり、地域住民の意見・要望、各市町村が認識している課題、今後の海岸保全に関する要望等を把握した。
- 今後、市町村等と連携し、詳細な状況を把握したうえで、必要な対策を実施または検討していくとともに、これまで実施してきた対策の状況が広く周知されるよう広報活動や情報発信にも取り組んでいく。

【③各市町村が把握している海岸保全に関する地域住民からの意見・要望】

- 津波に対する避難路、避難タワー等の一時避難場所の整備に関する意見・要望が最も多かった。
- 次いで、事業実施中の海岸における侵食対策、高潮・高波対策に関する意見・要望が多かった。
- その他、観光拠点整備、維持管理等に関する意見・要望があった。

→ 課題:これまで市町村も含めて各対策(特に避難路・避難場所の整備等の防災・避難対策)を実施している状況が十分に認知されていないことも懸念される。

【④各市町村が認識している海岸保全上の課題】

- 海岸への漂着ごみ、不法投棄への対応を課題と認識している市町村が最も多かった。
- 次いで、海岸保全施設や周辺施設の老朽化への対応が多かった。
- その他、避難路の整備や避難計画の実効性の点検、海岸利用者のマナーや交通対策等があった。

→ 課題:漂着ごみへの対応は海岸保全基本計画に記載されており、これまで海岸管理者によるごみの回収等を実施しているが、未だ課題が多いことを再認識し、活動周知・啓発等も含めてより推進していく必要がある。

【⑤今後の海岸保全に関する要望】

- 事業実施中の海岸(穴内漁港海岸、吉川～岸本海岸等)では、侵食、高潮・高波、地震・津波に対する引き続きの対策実施や早期完成の要望があった。また、新たな対策要望もあった。

→ 課題:新たな要望については、詳細な状況を把握していくとともに、今後の気候変動による影響も踏まえて、沿岸全体で必要な対策等を検討していく必要がある。

【参考】アンケート調査の結果(⑥利用・環境等に関する聞き取り)

- 各市町村より、海岸利用や環境保全等に関する意見の聞き取り候補先(漁協、観光協会、自治会等)を把握した。
- 以下の2箇所を対象に聞き取りした海岸保全に関する活動内容、現状の課題、今後の要望・意見等を参考に示す。
- 今後も引き続き、新たな施設整備の検討等を行う場合には、関係各所の意見の把握と反映に努める。

聞き取り先	室戸沿岸海難(津波)救助組織	むろと廃校水族館
活動内容 取組	<ul style="list-style-type: none"> ● 藻場整備を計画中(今年度より) ● 沿岸清掃(11月、対象:奈良師海岸) 組合員80名程度とその家族、総勢200名程度で実施 ● 補助金を活用して実施 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校や団体を対象に、海的环境などに関する講演や説明会を実施。(月1~2回程度。) ● 海洋ゴミに対する意識啓発。 ・ウミガメやサメの体内から出たゴミを「海の新しい仲間たち」として水槽内に浮遊させ展示。 ● 朝日新聞「海はエライ」を連載 ● ウミガメ放流
課題だと 感じる事	<ul style="list-style-type: none"> ● 海岸沿いで海藻が育たず、海藻を主食とするトコブシなどの生息が見られない。 ● 黒潮の影響なのか、漁獲高が減少している。 ● 藻場整備の専門的な知識がないため、整備方法が分からない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 強靱化政策も理解できるが、海岸が護岸(コンクリート)で覆われすぎ。 ・ウミガメを放流するために海へ降りる場所を探すことに苦労している。 ・鯨が打ち上がった場合の重機の搬入にも困っている。 ・災害時など有事には、堤防が支援(人命救助・救援物資など)の大きな障害となる。 ● 砂浜の消失 ・河川に堰を作りすぎて土砂が供給されなくなった。 ・ウミガメの産卵場所がなくなっている。事例:元大橋(高知県室戸市元)
今後に向けた 要望・意見	<ul style="list-style-type: none"> ● 藻場整備など、一つの団体で取り組むにはハードルが高いため、県や国が主導して海域の環境整備を行うことを期待している。 ● 将来的には室戸の海岸全域を整備したいと考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 人が海に落ちた時に登れるような孔もしくは突起物を堤防に作ってほしい。 ● 堤防に車輛が上陸できるような構造は作れないか。(スロープなど) ・災害時など有事に海から上陸できる構造、船上げ場としての利用など ● 海岸沿いだけでなく、内陸にも道路がほしい。(有事の迂回路としての機能)

海岸保全基本計画(変更)への反映

- 以下のとおり、アンケート調査の主な結果を踏まえ、今回の海岸保全基本計画(変更)へ反映する。
- アンケート調査の全体は、海岸保全基本計画の巻末資料に整理する。

No.	アンケート調査の主な結果	海岸保全基本計画(変更)への反映内容
1	各市町村において、防災計画の策定、避難路・避難タワー等の一時避難場所・防災無線等の防災情報伝達手段の整備など、様々なソフト対策が進められている。	<ul style="list-style-type: none"> • 「第2章 海岸保全施設の整備等に関する基本的な事項」に、今後の気候変動による影響を踏まえた場合、ハード対策のみで防御できるレベルには限界があること等を踏まえ、ハード対策とソフト対策を適切に組み合わせた適応策に取り組む必要があること、各市町村で取り組んでいる各種ソフト対策と連携していくことを追記する。
2	事業実施中の海岸(穴内漁港海岸、吉川～岸本海岸、直轄高知海岸等)では、侵食、高潮・高波、地震・津波に対する引き続きの対策実施や早期完成の要望があった。また、新たな対策要望もあった。	<ul style="list-style-type: none"> • 事業実施中の海岸については、引き続き実施中の対策に取り組んでいく。 • 新たな要望については、詳細な状況を把握していくとともに、今後の気候変動による影響も踏まえて、沿岸全体で必要な対策等を検討していく。
3	市町村や地域住民より、海岸への漂着ごみに対する対応や、津波に対する避難路・避難場所の整備等に関する課題の認識や要望があった。	<ul style="list-style-type: none"> • 引き続き必要な対策に取り組んでいくとともに、これまで市町村も含めて各対策を実施している状況が十分に認知されていないという課題があることを踏まえ、今後、市町村等と連携し、広く周知されるよう広報活動や情報発信に努める。 • 「付記 3. 留意すべき事項 (3)計画推進体制の確立(ネットワーク)」に、広報活動や情報発信に努めることを追記する。